

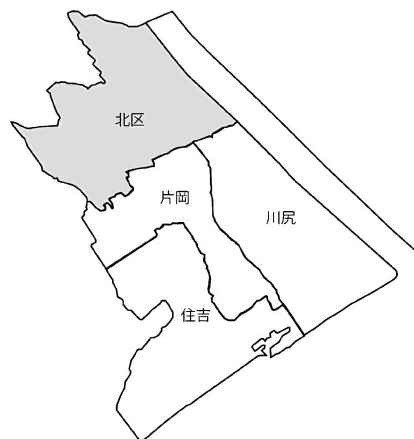
## 地域別構想 4

# 北区地域

### 地域の概要

#### ■人口、世帯数の変化（住民基本台帳）

北区地域	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
人口（人）	6,613	6,925	6,963	7,010	7,107
世帯（世帯）	2,277	2,477	2,516	2,566	2,651



#### ■面整備・都市施設整備状況

- 一級河川大井川沿いに工業系用途地域を指定しています。
- 都市計画道路は5幹線を計画決定しており、（都）東名川尻幹線、（都）富士見幹線の一部、（都）北部幹線、（都）大幡川幹線の一部は整備が進み供用開始しています。これらの路線の沿道には、富士山静岡空港や東名吉田インターチェンジ等とアクセスする立地の優位性から、今後さらに商業・サービス施設等の立地が加速すると予想されます。
- 東名高速道路、（都）大幡川幹線及び（都）東名川尻幹線に囲まれた地域については、地震津波等の災害の軽減と有事における防災拠点とするため、有事の際、沿岸地域で被災した住民の避難の受け皿となる北オアシスパーク（防災公園）を整備しました。
- 『内陸のフロンティアを拓く取組』により、北オアシスパーク（防災公園）周辺に、住民等の生活を支える生活物資を滞りなく供給する商業施設の立地を誘導しています。
- 都市計画公園は（都）青柳公園（0.55ha）を計画決定しています。

## I 都市計画に関連する地域課題

地域内には、現在、または将来的に次のような課題があると考えます。

- 津波浸水想定区域外にある北オアシスパーク（防災公園）及び東名吉田インターチェンジ周辺において、平常時には町の玄関口としての情報発信拠点機能、有事には災害時の一時避難地・応急仮設住宅用地・物資供給機能などの防災拠点機能の更なる充実と活用が求められます。
- 東名吉田インターチェンジ周辺においてビジネスホテルの建設など土地利用の変化が見られますが、今後、新たな沿道利用に際しては、町の玄関口としての計画的な土地利用の誘導を図るとともに、景観や地域環境にも配慮しつつ、本町の新たな拠点として相応しい土地利用を誘導する必要があります。
- （都）東名川尻幹線、（都）北部幹線を供用開始したため、幹線道路沿道は、商業・サービス施設等の立地が進むと考えられます。沿道利用に際しては、経済効果や既存環境との調和に配慮したコントロールが必要となります。また、幹線道路と自転車専用道や通学路との交差部分などについては、安全性への十分な配慮が求められています。

- 地域東側にある（都）大井川清流緑地は、島田市や川尻地区の緑地に比べると、雑草の繁茂がみられるため、環境の向上が求められています。
- 東名吉田インターチェンジ周辺は、町の玄関口としてふさわしい公共サインを設けるとともに、美しい景観にすることが望まれています。

## II 地域づくり基本構想

### 【地域づくりの目標】

およそ 20 年先の地域の将来イメージは次のとおりです。

### 自然との調和のある 住みやすいまち・北区

レタス栽培農地をはじめ、一級河川大井川の河川敷や美しい富士の眺めなどの自然環境に囲まれたこの地域は、富士山静岡空港の開港に相まって道路整備が進み、徐々に都市化が進みつつあります。東名吉田インターチェンジや優良企業のある地域特性を活かし、周囲の環境と調和しながら、住みやすいまちを目指します。

また、単なる通過点にならないよう、北オアシスパーク（防災公園）、東名吉田インターチェンジ、（都）能満寺山公園周辺の魅力を高め、町全体の顔となるような地域づくりを行います。

住みやすいまちにするための緑化や公園運営などに住民が参画することで、より愛着のある地域となることを目指します。

### III 地域づくりの方針

北区地域の将来像を実現するために、地域づくりの方針を以下のように考えます。

#### 1 土地利用の誘導方針

##### ① 東名吉田インターチェンジ周辺の土地利用の誘導

東名吉田インターチェンジ周辺においては、(都)東名川尻幹線や(都)北部幹線など幹線道路の整備が進み、ビジネスホテルなどの開発が見られ、今後も都市的土地利用のニーズが高まることが予想されます。このため、新たな沿道利用に際しては、町の玄関口としての計画的な土地利用の誘導を図るとともに、景観や地域環境にも配慮しつつ、本町の新たな拠点として相応しい土地利用の誘導を図ります。

##### ② 人口増加に伴う居住環境の整備

北区地域は、今後も人口増加が続くと考えられることから、生活道路などの基盤整備と合わせて、未利用地の計画的な宅地化を促進します。特に、用途指定のない地域においては良好な住環境の確保を図ります。

##### ③ 景観に配慮した工業用地の拡充

地域北側に農地と工業地が混在している地域がありますが、(都)北部幹線やはばたき橋の整備効果を高めるためにも、工業系の土地利用を進めることが望まれます。工場などの建設に際しては、地域内から望むことのできる富士山の景観が地域の貴重な資源であるため、建物の高さや色合いなど景観に配慮した建物となるよう誘導を図ります。また、事業場敷地の緑化は、敷地内の外周部に緑地を配置するなど、質の高い緑地とするよう指導します。

##### ④ 農地の維持と周辺環境に配慮した土地利用

東名吉田インターチェンジ周辺には町の特産品であるレタスの栽培農地が分布しています。農業を取り巻く厳しい状況が続くなか、まとまりのある農用地を保全・改善しつつ、宅地利用する際には、営農環境、景観などへ配慮するよう調整を図ります。

## 2 都市施設の整備・活用方針

### 1) 道路

#### ① (都) 大幡川幹線の早期整備

(都) 大幡川幹線の早期整備に取り組みます。幹線道路が整備されると、通学をはじめとする日常生活や地域コミュニティ維持への影響が懸念されることから、地域との協議を十分に行います。

#### ② 宅地化と併せた生活道路の誘導・整備

地域南側の宅地化が進む用途地域外の地区においては、周囲の環境に配慮した生活道路や排水路の配置が行われるよう規制と誘導を行います。生活道路の整備に際しては、上水道事業などとの調整を図ります。

#### ③ 危険箇所の改善

交通事故の多い交差点では、ソフト・ハードの両面から最も安全性が確保できる方策について検討し、改善に取り組みます。

#### ④ 広域農道の歩行者対策

地域の重要な生活道路である広域農道での歩行者の安全性を確保するための方策について検討を進めます。

#### ⑤ 街路樹や花による沿道緑化

(都) 大幡川幹線沿道の花壇作りをより活発にするほか、(都) 東名川尻幹線、(都) 北部幹線などは樹種選択や緑化方法について住民参画を視野に入れて、愛着の持てる沿道環境とします。

### 2) 公園・緑地

#### ① 北オアシスパーク（防災公園）における防災機能の活用

津波浸水想定区域外にある北オアシスパークは、災害発生時における被災者支援拠点、平常時には情報発信を通して町の振興につながる多様な取組が実践される拠点、地域コミュニティの活性化に資する活動の場としての機能の充実と活用を推進します。

#### ② 二級河川湯日川沿いの散策路の整備と管理

二級河川湯日川沿いの自然豊かな環境は、地域共有の資源として大切です。堤防を有効利用して、湯日川の自然に触れることができるような整備を進めます。二級河川湯日川護岸は、地元住民やボランティアなどの協力を得ながら、草刈りなど河川の管理・環境美化に取り組むとともに、不法投棄については、看板等の設置や不法投棄防止パトロールを実施するなどの対策を講じます。

### ③ 一級河川大井川沿いの広場の整備

一級河川大井川沿いにある緑地は、島田市や川尻地区の緑地に比べて、雑草の繁茂がみられるため、住民との協働による適切な管理と整備を進めます。また、河川敷にあるスポーツ広場は、アクセス路や広場の改良など、利用者の声を反映させた整備を進めます。

## 3 都市環境の形成方針

### 1) 都市防災

#### ① 準用河川大窪川の防災対策

準用河川大窪川の出水対策として、河川改修などに取り組みます。

### 2) 都市景観

#### ① 景観に配慮した看板・サインの設置

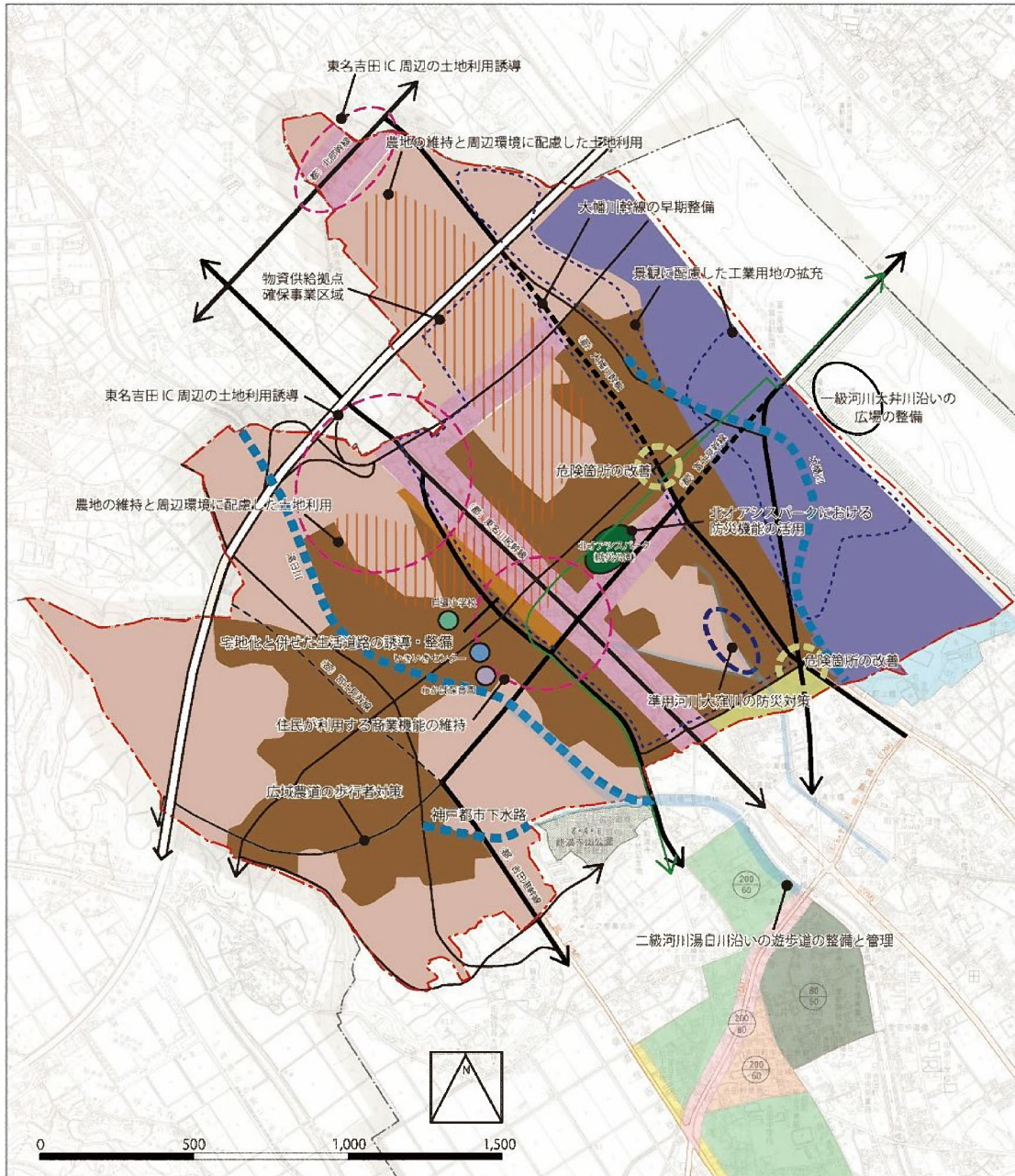
東名吉田インターチェンジ周辺の交差点や（都）東名川尻幹線沿道において、景観に配慮した看板・サインの設置、誘導に取り組みます。

#### ② 事業場の緑化と南アルプスの山並みや富士山を見渡す景観の確保

地域内から眺めることのできる南アルプスの南端や富士山の景観は、日常の生活に潤いを与えています。この景観を後世に残していくため、工場立地などの際に、事業場の敷地周辺の緑化を進めるとともに、眺望に配慮するよう規制・誘導するなど景観の確保に取り組みます。

## 4 地域づくり方針図

### 自然との調和のある 住みやすいまち・北区



## IV キーププロジェクト

地域の将来像『自然との調和のある 住みやすいまち・北区』を実現するため、以下に示すプロジェクトについて、象徴的に取り組むものとします。

### ◆ 行政が主体となる取り組み

#### 【キーププロジェクト1】

##### 北オアシスパーク（防災公園）の機能の充実

- ① 災害発生時における被災者支援拠点
  - ・ 災害発生時における被災者支援拠点として、周辺の商業施設と一体となり機能の充実を図ります。
- ② 町の情報発信拠点機能の充実
  - ・ 常に情報発信を通して町の振興につながる多様な取組が実践される拠点としての機能をさらに充実させるよう取組を検討します。
- ③ 地域コミュニティの活性化に資する活動の場としての活用
  - ・ 地元自治会と連携するなど、地域コミュニティの活性化に資する活動の場としての活用を図ります。

#### 【キーププロジェクト2】

##### 東名吉田インターチェンジ周辺地域への商業施設の立地誘導

- ・ 東名高速道路、（都）大幡川幹線及び（都）東名川尻幹線に囲まれた地域については、地震津波等の災害の軽減と有事における防災拠点とするため、有事の際、沿岸地域で被災した住民の避難の受け皿となる防災公園を整備しましたが、今後は、住民等の生活を支える生活物資を滞りなく供給する商業施設の立地を誘導し防災機能の集積するための土地利用を図ります。

#### 【キーププロジェクト3】

##### 公園緑地等の整備

- ① 街路樹や花による沿道緑化
  - ・ （都）東名川尻幹線、（都）北部幹線、（都）大幡川幹線などの街路樹に、地域性を考慮した緑化を行うとともに、住民に安らぎを与えている吉田町花の会による花いっぱい活動をより充実し、住民が愛着の持てる緑豊かな沿道環境を創出します。
- ② 一級河川大井川沿いの広場の整備
  - ・ 一級河川大井川沿いの緑地や広場が多くの地域住民に利用しやすいものとなるよう整備します。



③ 二級河川湯日川沿いの整備

- ・ 町立図書館と（都）能満寺山公園の連携を創出するため、二級河川湯日川沿いをはじめとする散策路の整備を進めます。
- ・ 散策路の整備に際しては、二級河川湯日川の自然・水辺に触れることのできるような手法に配慮します。

◆ 地域との協働による取り組み

【キープロジェクト4】

幹線道路沿道の緑化への参画

① （都）東名川尻幹線の緑化

- ・ （都）東名川尻幹線の緑化方法については、沿道植栽の手法を地域住民の参画により選択するなど、愛着の持てる道路としていく取り組みを進めます。
- ・ 樹木をはじめ、花の手入れなどについても可能な限り地域住民が携わる方法を検討します。

② （都）大幡川幹線の緑化

- ・ （都）大幡川幹線沿道では、花植えなどに地域住民が関わっていますが、より多くの参画を図りながら、緑化を進めます。

【キープロジェクト5】

地域の公園づくりへの参画

① 一級河川大井川の河川敷地広場整備への参画

- ・ 一級河川大井川の河川敷広場の利用や管理について地域住民の参画を得て話し合い、地域住民が有効に利用できるために必要な広場の整備を進めます。